

シュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団

Stuttgarter Philharmoniker (SPO)



2024年100周年を迎えたシュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団は、1924年9月に創設され、第二次世界大戦前中の困難な時代を経て1976年にバーデン・ヴュルテンベルク州立のオーケストラとなった。その間、フェリックス・ワインガルトナー、ハンス・クナーパッツブッシュ、カール・シューリヒトやヘルマン・アーベントロートら巨匠の熏陶で実力を蓄えた。2015年-2024年にはダン・エッティンガー(2010年から東京フィルハーモニー交響楽団常任指揮者、2015年より桂冠指揮者)が首席指揮者 兼 州都シュトゥットガルトの音楽総監督、2007年からフェルツのもとマーラーの交響曲の録音を開始。2013年レスピーギのバレエ音楽「シバの女王ベルキス」は1932年にミラノ・スカラ座で初演されて以来の全曲演奏、世界初録音がBlu-rayおよびDVDでリリースされた。ダン・エッティンガーのもと2007年セルゲイ・ラフマニノフ財団から「ラフマニノフ賞」を授与された。2013年よりマルクス・ボッシュが芸術監督を務めるハイデンハイムのオペラ・フェスティバルの祝祭オーケストラを務めている。

アドリアン・プラバーヴァ(指揮者)

Adrian Prabava, conductor



アドリアン・プラバーヴァは 2005 年第 49 回ブザンソン国際指揮者コンクールでの成功で国際的な名声を得、2006 年から 2008 年までフランス国立管でクルト・マズアの副指揮者をつとめた。チューリンゲン劇場のレジデント指揮者・音楽助監督をつとめ、ショスタコーヴィチのオペレッタ「モスクワ・チェリュオムーシカ」を振って批評家から高い評価を得た。2007 年には若い才能のための「ベルナルド・ハイティンク・ファンド」の最初の受益者になり2010 年までアムステルダム・ロイヤル・コンセルトヘボウ管でハイティンクの副指揮者をつとめた。インドネシアに生まれ、ドイツのデトモルト高等音楽院でヴァイオリンを学び、ハノーファー高等音楽院で大植英次に指揮を師事した。クルト・マズアとベルナルド・ハイティンクのほかに彼のメントルとなったヨルマ・パヌラのマスタークラスで指導を受けている。これまでにアムステルダム・ロイヤル・コンセルトヘボウ管、NDR ハノーファー放送フィル、パリ管、フランス国立管、オスロ・フィル、ベルリン放送響等、日本では2018年関西フィル、2023 年神奈川フィルに客演指揮している。

アンティエ・ヴァイトハース (ヴァイオリン)

Antje Weithaas, Violin



ベルリン生まれ。ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学でベルナー・ショルツに師事。1987年にグラーツのクライスター・ヴェットベックアーブ、1988年にライプツィヒのヨハン・セバスチャン・バッハ国際コンクール、1991年にハノーファーのヨーゼフ・ヨアヒム国際ヴァイオリン・コンクールで優勝し、2019 年に同コンクールの芸術監督に就任。ベルリン芸術大学の教授を務め、2004 年に母校ハンス・アイスラー音楽大学に移った。2017 年からは、クロンベルク・アカデミーでも教鞭をとっている。シュターツカペレ・ドレスデン、ベルリン・ドイツ交響

楽団、バンベルク交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、BBC 交響楽団等、ボストン交響楽団等の主要オーケストラ、アシュケナージ、マリナー等の指揮者と共に演奏。2009 年から 10 年間にわたりカメラータ・ベルンの芸術監督を務め、2021-22 シーズンはパリ室内楽団のアソシエイトアーティストを務めた。ダニエル・セペック、タベア・ツインマーマン、ジャン=ギアン・ケラスとアルカント・カルテットを結成し弦楽四重奏団として高い評価を得た。ハルモニア・ムンディからは、バルトーク、ブラームス、ラヴェル、デュティユー、クロード・ドビュッシー、フランス・シューベルトなどの作品の録音がリリースされている。現在クロンベルク・アカデミー教授。岡本誠司、インモ・ヤンを育てていることでも知られている。

松田 理奈(ヴァイオリン)

Rina Matsuda, violin



桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースにて研鑽を積み、2006年ドイツ・ニュルンベルク音楽大学に編入。2010年、同大学院を首席にて修了。1999年に初ソロリサイタルを開催した後、2001年第10回日本モーツアルト音楽コンクールヴァイオリン部門第1位、同コンクール史最年少優勝。2002年にはトップホールにて「16才のイザイ弾き」というテーマでソロリサイタル開催。2004年、第73回日本音楽コンクール第1位、2007年にはサラサーテ国際コンクールにてディプロマ入賞。2013年新日鉄住金音楽賞受賞。これまでに国内の主要オーケストラに加え、ハンガリー国立フィル、スク室内オーケストラ、ヤナーチェク・フィルハーモニー室内管、ベトナム響など数々のオーケストラや著名指揮者と共に演。2006年ピクターより『ドルチェ・リナ』をリリース。その後『カルメン』、清水和音とライブ収録した『ラヴェル・ライブ』、『イザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲集』をリリース。2018年には Brahms と Frank のソナタを収録した5枚目のアルバムをリリースした。

阪田知樹(ピアノ)

Tomoki Sakata, piano



2016年フランス・リスト国際ピアノコンクール第1位、6つの特別賞。2021年エリザベート王妃国際音楽コンクール第4位入賞。東京芸術大学を経て、ハノーファー音楽演劇大学大学院ソリスト課程に在籍。第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて弱冠19歳で最年少入賞。ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、聴衆賞等5つの特別賞、クリーヴランド国際ピアノコンクールにてモーツアルト演奏における特別賞、キッシンゲン国際ピアノオリンピックでは日本人初となる第1位及び聴衆賞。

国内はもとより、世界各地20カ国以上で演奏を重ね、国際音楽祭への出演多数。2015年CDデビュー、2020年3月、世界初録音を含む意欲的な編曲作品アルバムをリリース。阪田知樹ピアノ編曲集「ヴォカリーズ」を2022年5月に、「夢のあとに」を2023年7月に、阪田の作曲した「アルト・サクソフォーンとピアノのためのソナチネ」が23年11月に音楽之友社より出版。内外でのテレビ・ラジオ等メディア出演も多い。2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞、2023年第32回出光音楽賞、第72回神奈川文化賞未来賞、第20回ベストデビュアント賞を受賞。

仲道 郁代(ピアノ)

Ikuyo Nakamichi, piano



第 51 回日本音楽コンクール第 1 位、ジュネーヴ国際音楽コンクール最高位、メンデルスゾーン・コンクール第 1 位、エリザベート王妃国際音楽コンクール第5位入賞。

これまでに、マゼール指揮ピツツバーグ交響楽団、バイエルン放送交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、ズッカーマン指揮イギリス室内管弦楽団(ECO)、フリューベック・デ・ブルゴス指揮ベルリン放送交響楽団、P.ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団、ヤーバシュ・コヴァーチュ指揮ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、ケン・シェ指揮バンクーバー交響楽団などと共に演奏。

CD はレコード・アカデミー賞受賞 CD を含む「仲道郁代ベートーヴェン集成～ピアノ・ソナタ&協奏曲全集」、指揮活動を引退した名匠・井上道義氏と自身初となるモーツアルト協奏曲の録音「ザ・ラスト・モーツアルト」等をリリース。著書に『ピアニストはおもしろい』(春秋社)等がある。

2018 年よりベートーヴェン没後 200 周年の 2027 年に向けて「仲道郁代 The Road to 2027 リサイタル・シリーズ」を開催中。

一般社団法人音楽がヒラク未来代表理事、一般財団法人地域創造理事、桐朋学園大学教授、大阪音楽大学特任教授。令和 3 年度文化庁長官表彰、ならびに文化庁芸術祭「大賞」を受賞。

伊藤 憲孝(ピアノ)

Noritaka Ito, piano



1978 年生まれ。オランダ・アムステルダム、ドイツ・ベルリンで研鑽を積み、イタリアでの 18th Citta di Valentino International Competition で第 1 位、アメリカでの Golden Classical Music Awards International Competition 第 1 位を受賞。日本国内主要都市をはじめ、アメリカ合衆国、ドイツ、オランダ、オーストリア、スロバキア、イタリア、セルビア、マレーシア、韓国など世界各国で演奏を行なっている。スロバキア国立歌劇場管弦楽団をはじめ国内外のオーケストラとの共演。室内楽奏者として、NHK 交響楽団、サイトウ・キネン・オーケストラ、

名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、広島交響楽団、ブレーメン・フィルハーモニー管弦楽団、香港シンフォニエッタ、マレーシア国立交響楽団各奏者との共演など、活発に活動を行なっている。また国内外で録音した CD アルバムやインターネット配信がリリースされている。

現在、福山平成大学教授、広島大学客員教授、エリザベト音楽大学大学院非常勤講師をつとめると同時に、マレーシアの SEGi College university でのマスタークラス、トーキョーワンダーサイトでのワークショップなど、各地で後進の指導を行っている。

ローズ・ストリング・アンサンブル(弦楽アンサンブル)

Rose String Ensemble

日本が世界の誇る弦楽四重奏団、東京クワルテットの設立(1969年)メンバーで第1ヴァイオリンを12年つとめたヴァイオリニストで指揮者でもある原田幸一郎の門下生を中心に、いしかわミュージックアカデミーの卒業メンバーでソリストやオーケストラのコンサートマスターなどからなる特別アンサンブル。弦楽器・室内楽・オーケストラを知り尽くした原田の棒のもと、練り上げられた弦楽器の究極のアンサンブルが高く評価されている。

原田幸一郎(指揮)

Koichiro Harada, conductor



桐朋学園で学び、ジュリアード音楽院にてP.マカノヴィッキー、D.ディレイ、I.ガラミアンの各氏に師事。1969年に東京クルテットを結成、ミュンヘン国際コンクールで優勝し12年間第1ヴァイオリンをつとめた。エリザベート王妃、ロン=ティボー、ミュンヘン、ハノーファー等、数多くの国際コンクールの審査員を務めている。また、いしかわミュージックアカデミー等、教育活動にも力を注いでいる。指揮者としては、1988年に新日本フィルでデビュー以来、指揮活動にも意欲的に取り組んでいる。大阪フィル、読売日響、札響、京都市響など日本各地のオーケストラを指揮し、いずれも好評を博している。現在、桐朋学園大学特命教授、東京音楽大学特任教授。また、マンハッタン音楽院のファカルティーとしても後進の指導にあたっている。いしかわミュージックアカデミー音楽監督。

崎谷直人(ヴァイオリン)

Naoto Sakiya, violin



1998年ノボシビルスク国際コンクールジュニア部門第1位、メニューイン国際コンクールジュニア部門第3位を獲得し、ケルン音楽大学に最年少15歳で入学。その後パリ市立音楽院、桐朋学園ソリスト・ディプロマコースを経て、バーゼル音楽院修了。2006年にウェールズ弦楽四重奏団を結成。第1ヴァイオリン奏者として、ミュンヘン国際コンクール、大阪国際室内楽コンクールで各3位を獲得。2014年より8年間、神奈川フィルのソロ・コンサートマスターを務めた。ヴァイオリンを、原田幸一郎、ザハール・ブロン、ジェラール・プーレ、ロラン・ドガレイユ、ダニエル・ゼペック各氏に、弦楽四重奏をライナー・シュミット氏(ハーゲン四重奏団)に師事。現在は、ウェールズ弦楽四重奏団、石田泰尚とのヴァイオリンユニット“DOS DEL FIDDLES”等で幅広く活動し、全国のオーケストラに客演コンサートマスターとして多数出演している。

周防亮介(ヴァイオリン)

Ryosuke Suho, violin



ヴィエニヤフスキ国際コンクール入賞ほか国内外のコンクールで優勝や入賞を果たす。パリ管弦楽団や NHK 交響楽団など国内外オーケストラと共に演数。15 歳で初リサイタル。2023 年 1 月にはサントリーホール大ホールにて「無伴奏ヴァイオリン・リサイタル」を開催するなど、その活躍は目覚ましい。東京音楽大学特別特待奨学生として学び、修了後メニューイン国際音楽アカデミーに留学。ヴェンゲーロフ氏、カピュソン氏のもと研鑽を積んだ。使用楽器は NPO 法人イエローエンジェルより貸与されている 1678 年製ニコロ・アマティ。

上敷領藍子(ヴァイオリン)

Aiko Kamishikiryo, violin



大阪府出身。4歳よりピアノ、7歳よりヴァイオリンを始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を卒業後、同大学音楽学部首席卒業。卒業時に三菱地所賞、アカンサス音楽賞を受賞。同大学大学院修士課程修了。2011年渡蘭。マーストリヒト音楽院を特別賞を得て首席卒業。これまでに全日本学生音楽コンクール、中・高校の部第2位、大阪国際音楽コンクール第1位、宗次エンジェルヴァイオリンコンクール第3位、バルレッタ国際音楽コンクール・ソロ部門、室内楽部門併せて第1位(イタリア)、レオポルド・ベラン国際音楽コンクール第1位(フランス)、マルコ・フィオリンド国際音楽コンクール第2位(イタリア)、等国内外のコンクールにて多数受賞。また、青山音楽財団より新人賞、リゾナーレ音楽祭にてハイデン賞など受賞。オーケストラアンサンブル金沢、藝大フィルハーモニア管弦楽団、日本センチュリー交響楽団などオーケストラとも多数共演。2012年度野村財団奨学生。

これまでに本多智子、田渕洋子、浦川宜也、梶山久美、玉井菜採、ボリス・ベルキン、ジェラール・プレの各氏に師事。2016年に帰国し、国内外にてソロ、室内楽、オーケストラの客演など各分野において幅広く演奏活動をしている。

現在、京都コンサートホール登録アーティスト。パトス四重奏団、DUO GRANDE、メリア・クアルテットのメンバー。

大島衣恵/ 能楽

Oshima Kinue/ Nougaku



能楽師 シテ方喜多流

(社)能楽協会会員

1974年生れ。2才、「鞍馬天狗」稚児で初舞台。祖父久見、父政允(シテ方喜多流職分 国総合指定重要無形文化財)に師事。現在、喜多流大島能楽堂(広島県福山市)を拠点に国内外で活動。エリザベト音楽大学、おかやま山陽高校の非常勤講師。広島中国新聞文化センター講師。

2005年度「広島県民文化奨励賞」受賞

2007年度「広島県教育奨励賞」受賞

2010年度「広島国際文化財団 国際交流奨励賞」受賞

2018年度「広島文化賞」受賞

池辺晋一郎/ 作曲家, 祝祭合唱団指揮, 総合プロデューサー

Ikebe Shi-nichiro/ Composer,Conduct



作曲家。1967年東京藝術大学卒業。1971同大学大学院修了。池内友次郎, 矢代秋雄, 三善晃, 島岡譲の各氏に師事。1966年日本音楽コンクール第1位。同年音楽之友社室内楽曲作曲コンクール第1位。1968年音楽之友社賞。以後ザルツブルク TV オペラ祭優秀賞, イタリア放送協会賞(3回), 国際エミー賞, 芸術祭優秀賞(4回), 尾高賞(3回), 毎日映画コンクール音楽賞(3回), 日本アカデミー賞優秀音楽賞(9回, うち3回最優秀賞), 横浜文化賞, 姫路市芸術文化大賞などを受賞。1997年NHK 交響楽団・有馬賞, 2002年放送文化賞, 2004年紫綬褒章, 2016年第24回渡邊暁雄音楽基金特別賞受賞。現在東京音楽大学名誉教授, 東京オペラシティ・ミュージックディレクター, 横浜みとみらいホール館長, せたがや文化財団音楽事業部音楽監督。ほか多くの文化団体の企画運営委員, 顧問, 評議員, 音楽コンクール選考委員などを務める。2018年10月より「ばらのまち福山国際音楽祭」総合プロデューサー。